

熊大通信

Kumamoto University Campus Magazine

vol. 95
SPRING 2026

特集

I

熊本大学キャンパスミュージアム

長き歴史を刻む学びの場
ここにある感動を、多くの人々へ

特集

II

大学で磨け! 国際感覚

—熊本大学のグローバル教育



熊本大学復興シンボルのひとつ、熊本地震後に再建された工学部1号館(2019.4月竣工時の写真)

01	— 工学部1号館	熊本大学復興シンボルのひとつ、 熊本地震後に再建された工学部1号館
03	— 巻頭特集	熊本地震から10年 終わらなき復興を担って
05	— 特集Ⅰ	熊本大学キャンパスミュージアム 長き歴史を刻む学びの場 ここにある感動を、多くの人々へ
11	— 特集Ⅱ	大学で磨け! 国際感覚 —熊本大学のグローバル教育
17	— 研究室探訪	海の生物の行動や生息背景を明らかに。 多様性や水資源維持にも貢献! ～熊本大学大学院自然科学教育部 山田研究室
19	— 卒業生ジャーナル	
21	— 熊本大学OFFICIAL GOODS 熊本大学のオリジナルグッズ紹介	
22	— 熊本大学基金よりお知らせ	
23	— キャンパスミュージアム散策「大坂城攻めはすべてけりが付いた。」	

【発行】 国立大学法人 熊本大学
 〒860-8555 熊本県熊本市中央区黒髪2-39-1
【総務部総務課広報戦略室】
 Tel.096-342-3119 Fax.096-342-3110
 sos-koho@jimu.kumamoto-u.ac.jp

【編集】 熊大通信編集委員会
 首藤 剛 / 委員長 広報担当副理事
 (大学院生命科学研究部(薬学系)准教授)
 宮尾千加子 / 理事(非常勤/広報・ブランディング・行政連携担当)
 松岡 浩史 / 大学院人文社会科学研究部(文学系)准教授
 濱田 絵美 / 大学院人文社会科学研究部(法学系)准教授
 山田 勝雅 / 大学院先端科学研究部(理学系)准教授
 寺崎 秀紀 / 大学院先端科学研究部(工学系)教授
 中村 五月 / 大学院生命科学研究部(保健学系)准教授
 倉内 祐樹 / 大学院生命科学研究部(薬学系)准教授
 松永 拓己 / 大学院教育学研究科美術科教育 教授
 廣田 孝史 / 総務部総務課副課長(広報戦略室長)

【制作】 株式会社城野印刷所
 ※記載されている職名や学年等は、取材時のものです。

2016年4月に発生した熊本地震は、熊本大学にも大きな被害をもたらしました。被害を受けた熊本大学の数々の建物の中で、建て直しが必要となったのが黒髪南キャンパスの工学部1号館です。現在の建物は、地震から約3年後の2019年4月に開館。熊本地震から新棟完成までの約3年間、教職員や学生たちは仮設プレハブ校舎で研究や勉学に励みました。

今年は、熊本地震から10年という節目の年。あの恐怖や不安を二度と味わいたくはありませんが、一方で、地震直後から避難所運営に活躍した教職員や熊大生たちの努力や、震災から得られた学びは受け継いでいかなければいけません。

工学部1号館は、改めて気持ちを引き締めさせてくれる、熊本大学復興シンボルのひとつになっています。



工学部1号館建設中の3年間、研究や勉強を支えた仮設プレハブ

熊本地震における学生の活躍や熊本大学の取り組みを記録した熊大通信61号をぜひご一読ください。



熊本地震から10年 終わりになき復興を担って

2016年4月、震度7という巨大地震が2度も熊本を襲いました。熊本大学も大きな被害を受けましたが、この10年で力強く立ち直っています。

しかし、復興や防災に「ここまでいい」というゴールはありません。地震から10年の節目におけるメッセージを小川久雄学長から、そして、今改めて考えるべき防災について、竹内裕希子副学長から話を伺いました。

より強靱な社会を創ること それが、熊本大学の使命

熊本大学 学長
小川 久雄
Hisao OGAWA



非常事態のリーダーシップを取る その決意を新たに

2026年4月、学業の場ではまた新しい一年が始まりました。今年度は熊本大学にとって、新設の共創学環がスタートする記念すべき年。加えて、熊本地震から10年という節目の年でもあります。

熊本地震発生時、私は国立循環器病研究センターの理事長に就任したばかりでしたが、発災から数日後には帰熊し、国立循環器病研究センターの医療チームとともに救援活動を開始。被災者の治療だけでなく、避難生活の車中泊に起因するエコノミッククラス症候群の予防啓発に努めたことも記憶しています。



熊本地震で、ドクターカーとともに活動する国立循環器病研究センター医療チーム

この医療活動においては、今後に生かせる様々な学びがありました。そのひとつが、大災害発生時に各地からやってくる救援隊については統括するリーダーが不可欠だということ。熊本大学は、熊本県内では唯一附属病院を持つ総合大学であり、医療はもちろん、竹内裕希子副学長をはじめとした防災が専門の研究者も在籍しています。地域でこういった非常事態が起これば、様々な意見を聞き予測を立て、必要な手を打つためのリーダーシップを取る、その責務を担うことができ、かつ、担わなければならないのが私たち熊本大学です。熊本地震から10年の節目に、私たちはその覚悟を新たにしています。

打ちのめされても 力強く立ち上げられる地域へ

私は循環器を専門とする医師であり、医療と自然災害への対策は同じだと考えています。医療で言う、まずは命を救う「急性期」である災害直後への対応も大事ですが、「慢性期」にあたる災害からの復興期も同様に重要です。医療で言えば慢性期にあたるこの10年、地震前にも増して力強く歩みを進めているのが熊本大学。一例として、今年度開設の共創学環だけでなく、2024年度に情報融合学環と工学部半導体デバイス工学課程も新設し、持続可能社会の実現に貢献する多様な人材育成を担います。復興とは単に元に戻すことではなく以前よりもより良くなっていくことであり、そこにゴールはないと私たちは考えます。

今、熊本県は半導体で盛り上がっています。しかしこれも、半導体だけで終わってはならず、半導体を武器に様々な新しいビジネスを創出することが不可欠。そうやって構築された堅固な産業基盤に支えられた地域なら、もしまた大きな自然災害が起こり打ちのめされることがあっても、必ず、私たちが力強く立ち上がらせてくれるはず。教育、研究、そして社会貢献という大学の役割を果たしながら、強靱な地域を創生していくことが熊本大学の使命です。

「情報」「物」そして「人とのつながり」 日ごろから3つの備えを意識してほしい

防災が専門の研究者であり、2025年10月に熊本大学の防災および安全管理担当の副学長に就任した竹内裕希子教授が、防災についてメッセージをくれました。

熊本大学 副学長
(防災・安全管理担当)
大学院先端科学研究部 教授
竹内 裕希子
Yukiko TAKEUCHI



防災専門の研究者として 熊本大学ならではの役割を拝命

昨年度、熊本大学が「防災・安全管理担当副学長」という役職を創設し私にお声がけいただいた際に、防災の研究者として、自分が所属する大学の安全管理に関わらずにいられない使命感を感じ、拝命することとなりました。このような役職はほかの国立大学にはなく、大きな災害を経験した地にある熊本大学らしい役職ではないかと考えています。

役割のひとつは、本学におけるリスクマネジメントです。本学は熊本地震後に災害を含む緊急時に業務を継続し、早急に復旧させるための計画（BCP：事業継続計画）を策定しています。このBCPが、施設の被害や、学生および教職員の安否確認、さらにはその次の、どう復旧しよう教育を継続しよう復興していくのか、被災後72時間以降も見据えたものになっているかを確認していくことも、私の重要な責務です。

「情報」があつてはじめて 「物」の備えができる

防災について、私はいつも「情報で備える」「物で備える」「人のつながりで備える」という3つの備えの重要性を伝えています。

防災と聞けば「非常袋」を準備しようと考えますが、そもそも非常袋はどんな時に使うのかを考えれば、非常袋の前には自分が遭うかもしれない災害を知るべきです。そのためにはまずハザードマップや過去の災害記録を見て、自分の地域でどんな災害が起こる可能性があるのかを知ることが不可欠。そして自分と同じ世代の人はどのような状況に陥ったのか、子どもがいる人はどうしたのか、家族の介護をしていた人はどうしたのか。仕事はどうしたのか。そういうことを具体的に知っていくと、どのような準備が自分を助けるのかがわかり、非常袋や備蓄の中身が変わります。

災害時の行動も、避難所に行くだけが対策ではありません。避難所生活がどのようなものかを知り、そこでの生活が難しいと感じるなら、ほかの選択肢として車中泊などを考えておくべきです。しかしそれも、車があれば安心とはいかず、車の中でどんな備品が必要か、車中泊できる場所はどこか、知っておかないといけません。こういった、「情報の備え」を踏まえて「物の備え」を実行してほしいと思います。そして、「人とのつながりで備える」ことも大切です。熊本地震の時は多くの人が人とのつながりや助け合いの重要性に気が付きましたが、人との関係性はいきなり作れるわけではありません。誰と助け合えるか、助けてあげられるか、といったことを日ごろから考え、その関係を構築しておくことが大事。地域の防災でも大学の防災でも、基本は同じだと考えています。

ボランティアを学んだうえで 活動するサークル「熊助組」

私は、工学部公認の災害ボランティアサークル熊助組の顧問も担当しています。熊助組は2007年に設立された団体で熊本地震でも活動しましたが、実は、熊本大学内の避難所運営からは早々に撤退し、熊本市社会福祉協議会へ支援に行きました。学内にはほかのサークルなどの団体もいたので、熊助組は学外の手薄なところへ向かった。これは、彼らが日ごろからボランティアについて学んでいたからできたことでした。

熊本地震の時には、学部や所属サークル等を問わず多くの熊大生がボランティアを実施し、地域の皆さまからも大変感謝されました。しかし後日の調査で、「本当は帰りたかったけど帰れなかった」「避難者から職員と間違えられ、説教をされて辛かった」などという声も聞かれました。ボランティアとは基本的に自主性に基づくものであり、やりたくないならやらなくていい。そういったことを知らずにボランティアをした学生たちの中に、辛い思いをした人がいたことも事実です。

熊助組は、設立から間もなく20年を迎えます。ボランティアとはなにか、災害現場とはどのような場所なのかを日ごろから学び、自分を犠牲にしない支援を行えるように準備をしています。彼らがこれからも学び続けられる機会の創出や、安全な活動を継続するためには資金が必要で、そのためのクラウドファンディングを現在実施させていただいています。未来へ「たすけあい」を繋ぐために、多くの方の支援をお願いできれば幸いです。



未来へ「たすけあい」を繋ぐ！
「熊助組」20周年！学生が挑む災害復興と次世代育成
クラウドファンディング実施中

目標金額	募集期間
250万円	2026年1月13日(火)～ 5月11日(月)

クラウドファンディング専用サイトはこちら →

m 熊本大学キャンパスミュージアム

長き歴史を刻む学びの場
ここにある感動を、多くの人々へ

旧制第五高等学校をはじめとした様々な前身校から多くの教育を受け継ぎ、豊かな文化を育んできた熊本大学。キャンパス全体をミュージアムとしてとらえ、歴史的建造物や貴重な資料の意義や魅力をより広く伝えるための構想が「熊本大学キャンパスミュージアム」です。



ミュージアムを通し 熊本大学を地域の誇りに

熊本大学黒髪北キャンパスにある五高記念館は、明治22(1889)年、当時の旧制第五高等学校、のちの旧制第五高等学校の本館として建てられました。このほか、同じく黒髪北にある「赤門」と「化学実験場」、黒髪南キャンパスにある「工学部研究資料館」の4つは、国の重要文化財に指定されています。また、医学部の「肥後医育ミュージアム」や薬学部の「熊薬ミュージアム」などでは、蓄積された多くの貴重な資料や実験器具などを紹介しています。

それらに加え、熊本大学には、埋蔵文化財調査センター、永青文庫研究センター、漱石・八雲教育研究センターや国際マンガ学教育研究センター、文書館や附属図書館、くまもと水循環・減災研究教育センターなどもあり、古から現代にわたる様々な資料群を保管・研究しています。それらのすばらしさをお伝えするだけでなく、歴史や文化への理解と、これらの教育や研究の発展に寄与する役割を担うのが熊本大学キャンパスミュージアム推進機構です。ミュージアムを通じて、学内の教職員や学生はもとより、学外の方々にも熊本大学を熊本の誇りと感じていただければ大変うれしく思います。

熊本大学 理事・副学長
熊本大学キャンパスミュージアム推進機構
機構長
水元 豊文
Toyofumi MIZUMOTO



貴重な文化財の数々は 見てもらってこそ価値がある

熊本大学キャンパスミュージアムは、小川久雄学長が就任した2021年、学長の「熊本大学をもっと開かれた大学に」というコンセプトのもとに構想が立ち上がりました。以来ずっとミュージアムに携わっているのが、行政職歴任後熊本大学に着任し、広報戦略を担ってきた宮尾千加子理事です。



熊本大学 理事
熊本大学キャンパスミュージアム推進機構
副機構長
宮尾 千加子
Chikako MIYAO

多くの人に来てもらう「きっかけ」も創出

私は行政職に就いていた頃、熊本県立美術館の館長も務めたことがあります。そんな経験から思うのは、熊本大学にあるすばらしい「宝」は、保存や研究に加え、人々に知ってもらってこそ価値がある、ということ。だからこそ、小川学長の「開かれた熊本大学に」というコンセプトには強く共感しました。これからもっと熊本大学キャンパスミュージアムの取り組みを発信し、たくさんの人に来ていただきたいと思っています。

そのきっかけを創出するため、常設展・企画展両方の充実、他大学や外部組織との連携強化も図ります。そのほか、個展スペースとして五高記念館の部屋を貸し出したり、子どもから高齢者まで、参加したいと思ってもらえるイベントなども仕掛けていく予定。また、2026年は夏目漱石来熊130年であり、漱石文化みらい会議くまもとや、熊本県、熊本市などとも連携し、様々な漱石関連企画も実施したいと考えています。

そんなキャンパスミュージアムの魅力発信に力を発揮してくれているのが、学生が運営するteamCOCORO。約20名の学生がアンバサダーとして活動してくれています。昨年バスツアーが熊本大学を訪れたときには、学生たちにマントを着て案内してほしいというオファーがあり、彼らは喜んで対応してくれました。台湾との交流も増え、学生同士の意見交換会では英語でプレゼンも。キャンパスミュージアムでの活動が、学生にとってもすばらしい経験になっていると感じています。

⇒teamCOCOROは、P9-10で紹介しています。



五高記念館の中央階段

宮尾理事のイチオシ!

▶ 自然と調和した五高記念館

明治時代の、ナンバースクールと呼ばれた8つの旧制高等学校のうち、建物が現存するのは金沢大学の四高と熊本大学の五高のみ。どちらも片側に廊下、もう片方に教室が並ぶ形なのですが、四高は廊下が北側で教室が南側。一方五高は、廊下が南側で教室は北側に配置されています。これは、熊本で南側に教室を配置してしまうと陽射しが強く教室内が暑くなりすぎるためと言われています。四高は逆で、南側の教室で部屋を暖かくしていたわけです。自然と調和した設計がすばらしいと思っています。



▶ 囚人たちの汗の結晶・赤レンガ

熊本大学に残る古い建造物で印象的なのが、赤レンガ。これらは、当時立田山の中腹にあった窯で、熊本監獄(現・熊本刑務所)の囚人たちの手によって製造されたそうです。近代的な建物を設計した頭脳集団がいた一方で、大量のレンガを焼く途方もない労働に従事した人々もいた。いろいろな人の思いが詰まっているからこそ、熊本大学の歴史的建造物の圧倒的な美しさや堂々たる佇まいに心が震えるのではないのでしょうか。



文化の力で「人を幸せにする」 それが、ミュージアムの役割

熊本大学大学院教育学研究科の研究者であり、かつ、芸術家としても活動する松永拓己教授は、熊本大学キャンパスミュージアム構想のキーパーソン。

芸術家ならではの視点で、ミュージアムの魅力を語ってくれました。



熊本大学 学長特別補佐
熊本大学キャンパスミュージアム推進機構
副機構長
大学院教育学研究科 教授
松永 拓己
Takumi MATSUNAGA

文化財の魅力ある空間で 自分の心の変化を感じてほしい

私は、空間というものを非常に魅力的に見ています。五高記念館や化学実験場などが持つ、130年を超える「歴史の貫禄」はそれだけでとても素敵なのです。しかし、歴史を封じ込めたレンガ造りの建物の中で感じるヒヤリとするような空気感や、現代人の感覚で言えば白が当たり前の教室の壁がここでは色味を帯びている、なぜだろうという疑問。それらは実際に文化財の中の空間に身を置くとこそ得られる感覚や疑問であり、それを楽しむことが、文化財に実際に「触れる」ことの大きな意味ではないでしょうか。

たとえば、ラフカディオ・ハーンが歩いたであろう廊下や階段。何万人もの学生たちや教員が行き来したことですり減ったくぼみを見れば、ここには確かに彼らがいたんだと感じられる。エアコンもない夏は暑かっただろう、冬は寒かっただろうなどと思いをはせながら、ハーンらがいた時代と変わらない空間の中にたたずんだとき、自分の心がどんなふうになるのかを、熊本大学ミュージアムキャンパスでぜひ多くの皆様に味わってみたいと思います。



五高記念館の外階段

古きを重んじ 新しきを創ることが役割

熊本大学キャンパスミュージアムで私がやりたいことを一言で表せば、「キュレーション」です。キュレーションとは、ある分野の情報やコンテンツを収集し、整理し、提示するという意味。美術館や博物館にはそれを専門とするキュレーターと呼ばれる役割もあります。熊本大学が受け継いできた様々な建造物、教育や研究遺産、資料を「ミュージアム」という形で集約・整理し、わかりやすく多くの人に見ていただくことが私の役割だと考えています。

私は芸術家でもあるのですが、芸術は尊いものだ、すごいものだと腕を組んで堅苦しくしていても始まりません。芸術は人に見てもらってこそ価値があり、これは文化財も同じです。「不易流行」「温故知新」という言葉があるように、古いものを大切にしつつも、現代に合わせた切り口をもって多くの人に興味を持ってもらい、そこから、新しい何かを生み出していくべきだと思います。

そのための私たちの取り組みの一例が、子どもたちや芸術に携わる方々を集めて行うスケッチ大会。作品は、TSUTAYAさんや肥後銀行さんのお力を借りて外部展示も実施しています。そのほかに写真アート展も開催。入賞した作品は展示やHPで紹介しています。これらのイベントは、熊本大学キャンパスミュージアムの施設を、ただ見るだけでなく、どう表現しようかと思いつく「絵」や「写真」として切り取ることで、誰も気づいていなかった魅力を発見してもらうことも目的の一つです。ある視点をもってまなざしを変えて何かを真剣に見たとき、世界の見え方は違って来るもの。皆様の気づきを、熊本大学の新たな魅力にできればうれしいですね。

圧倒的な歴史の迫力の中で 最先端研究を知る醍醐味も

さらに、熊本大学キャンパスミュージアムでは新たな取り組みも始めていく予定。その一つが、五高記念館の2階に熊本大学の「今」をお見せする部屋を作ることです。熊本大学の前身校のすばらしさをご紹介する展示はこれまでも行ってきました。それらに加え、現在の熊本大学の、各学部や学環、研究センターが持つパワーをご紹介することが目的。五高記念館という、長い歴史を持つ建造物が醸し出す圧倒的な迫力の中で、驚きに満ちた現代テクノロジーや最先端研究を知る醍醐味は、熊本大学キャンパスミュージアムだからこそ提供できるものだと自負しています。そうやってこの五高記念館が、熊本大学の魅力と知の拠点としてのシンボルになっていくことが願いです。

そして、熊本大学キャンパスミュージアムの最終的な目標は、Well-Being だと私は思います。熊本大学が持つ文化財や知を積極的に公開することが、他大学や企業とつながるきっかけとなり、つながったことで新しい何か生まれ、社会がより良くなり、人が幸せになる。それが、私が考える熊本大学キャンパスミュージアムが目指す未来です。

松永教授のイチオシ!

▶ラフカディオ・ハーンの石碑

明治27年1月に行われた「極東の将来」と題した講演で、ハーンは「日本の将来は無益な贅沢、華美を捨て、質実、簡素、善良を愛する九州魂、熊本魂の維持如何にかかっている」と話しました。その言葉が刻まれた石碑が熊本大学にあります。

ハーンは、多国籍だったからこそ日本人独特の世界観に気づいたのではないかと思います。様々な国を回り、その果てにやってきた「極東」の九州・熊本で、その世界観に価値を感じ、それを言葉にして、当時の五高生だけでなく、現代を生きる私たちにすら残したかったのではないかと、この一文を読むたびに感じます。私たちは日本人、そして極東人として、こういった先人が残した言葉から何かを感じ取り、明日の自分の血とし肉としていくことができる。それが、文化の力だと私は思います。



学外との積極的な連携・共創も

2025(令和7)年1月、熊本大学は東京藝術大学と連携協定を締結。東京藝術大学の共創プロジェクト「共生社会をつくるアートコミュニケーション共創拠点」に参画しています。この連携のもと、松永教授は東京藝術大学出身の田中一平特定事業教員とともに、「文化的処方展」を化学実験場で開催しました。熊本大学キャンパスミュージアムでは、学外と連携したこのような取り組みを今後も積極的に進めていく予定です。



2026年2月中旬に化学実験場で行われた「松永拓己×田中一平×文化的処方展」

※文化的処方…孤独や孤立問題が偏在する社会で、健康や幸福を守るための文化による取り組み。熊本でも2025年4月から本格的に実践研究が始まっています。

松永教授は、キャンパスミュージアムをテーマにした自身の作品で熊本通信の裏表紙を飾ってくれています。これまでの作品をぜひご覧ください。



もっともっとたくさんの人に来て、見て、楽しんでほしい!

熊本大学キャンパスミュージアム
学生アンバサダーチーム

teamCOCORO

teamCOCOROって何?

熊本大学キャンパスミュージアムの魅力を発信する役割を担う学生たちが集まったチーム。学生たちは「学生アンバサダー」として、様々な活動を行っています。

何をしているの?

魅力発信が活動目的なので、まずは週1回Instagramに投稿し、ミュージアムの施設や熊本大学のスポット、イベント情報などを発信しています。イベントは、発案、企画、そして運営まですべて学生自身が実施。月1回のミーティングで話し合っています。

私たちが、学生アンバサダーです!

現在所属する学生は約20名。
その中から、新宅彩加さんと牧野花太郎さんにお話を伺いました。



法学部3年
新宅 彩加さん
Ayaka SHINTAKU



文学部2年
牧野 花太郎さん
Harutaro MAKINO

学生ならではの視点でいろんな企画 若い人たちにも積極的にPR

—なぜteamCOCOROに入ったんですか?

▶**新宅** 私は1年生の時、当時あったグローバルリーダーコースに所属しており、熊本大学に留学中の外国人留学生や海外からの観光客と接する時間が多かったんです。でも、彼らに熊本や熊本大学のことを聞かれても何も答えられなくて、自分の地元や大学について何も知らない自分が恥ずかしくて、2年生の春にteamCOCOROに入りました。

▶**牧野** 私は入学してすぐ入りました。実は高校生の時、旧制高等学校を題材にした小説を読んだんです。そこで、自分が生まれ育った熊本に、当時全国に8つあったナンバースクール(※)と呼ばれた旧制高等学校のひとつがあったことを知りました。でも私の同世代は、そういう歴史を知らない人がほとんど。自分たちのような若い世代が

伝えていくことが大事だし、若い視点で発信していかないとすばらしい歴史が廃れてしまうと思ったことがチームに入った理由です。

▶**新宅** だから、teamCOCOROではInstagramを通して若い人に興味を持ってもらえるように「映える」写真を撮影し投稿しているんです。まずは「おもしろそうだな」と思ってもらうことが、キャンパスミュージアムを訪れるきっかけになるように工夫しています。

—これまでで印象に残ったイベントは?

▶**牧野** 2024年と2025年のオープンキャンパスでやった、構内にある夏目漱石の銅像を使ったイベントです。その漱石像は左手を差し出して、その手の下に頭を持ってくと漱石に頭をなでてもらっているような状態になるんです。それ

をすると「賢くなる」という熊大生の言い伝えもあるので、オープンキャンパスに来た受験生にやってもらい、チェキで撮影し写真を配布しました。私が発案し企画したイベントなんですけど、200人くらい来てくれて大盛況。なによりも、日本人なら誰もが知っている文豪が熊本大学にいたという歴史を知ってもらえたことが一番うれしかったです。

▶**新宅** やっぱりオープンキャンパスは高校生が熊本大学に来てくれるいい機会なので、イベント参加や五高記念館に来てくれるよう、どんな声掛けをすればいいかチームで考え工夫したり、それによって、熊本大学の歴史も含め、より興味を持ってもらえたことがすごく印象に残っています。

▶**牧野** 歴史と聞くと、「難しそう」とか「勉強する教科」というイメージかもしれませんが、そうじゃないんですよ。過去と今はつながっていて、歴



この建物が何かを知らない人でも、圧倒されるような空気感がある場所。私はここへ来るといつも熊本大学を誇りに感じ、熊大生でよかったと感じます。



五高記念館 重要文化財



化学実験場 重要文化財



黒髪北地区

3

赤門は何といても熊本大学のシンボル! 道路に面していて目立つので、写真を撮る観光客の方も多いですよ。



表門[赤門] 重要文化財



附属図書館

階段教室がイチョウ! 教壇で行われる実験などを見やすくするため、学生たちの座席にすごい傾斜がついているんです。明治時代としては画期的な造りで、教育に対する五高の気概を感じます。



永青文庫研究センター

県道337号

内部は吹き抜けになっていて、開放感がすごいです。並べられている機械も重要文化財指定を受けていて、すべて今も動きます。開館は毎月1回のみですが、外から見るだけでも素敵ですよ!



工学部研究資料館 重要文化財



文書館



本部(旧熊本高等工業学校本館) 登録有形文化財



熊本大学医学部の前身である、細川藩が創設した医学家「再春館」以来の熊本全体の医学の歴史を伝えています。熊本で医師を目指す人は必見かも!



山崎記念館 登録有形文化財

大江地区

旧細川藩の薬園だった蕃園に由来する貴重な植物も見ることができます。薬草パーク観察会などのイベントが定期的に開催されていますよ!



薬草ミュージアム

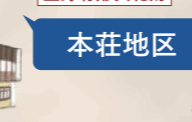
黒髪南地区



くまもと水循環・減災研究教育センター



肥後医育ミュージアム



本荘地区



薬草ミュージアム



薬用植物園

熊本大学キャンパスミュージアム
公式HPはこちら →
熊本大学キャンパスミュージアム推進機構



史があるから今自分たちもここにいます。熊大生には、ミュージアムを通して自分たちも熊本大学の歴史の一部だと感じてほしいですね。

—今後どんな活動をしていきたいですか?

▶**牧野** 学外の人たちと連携したイベントなど、学外にteamCOCOROの活動範囲を広げたいと思っています。当時の五高生が通っていた店などが今も街中にありますから、そういったところと一緒に何かやってみたいです。大学はどうしても学外の人にとっては「近寄りやすい」場所。だからより多くの人の目に留まるようこちらから出て行くことで熊本大学キャンパスミュージアムを知ってもらい、「じゃあ熊本大学に行ってみようか」と思ってもらえるようにしたいですね。

▶**新宅** 自分がteamCOCOROに入ったきっか

けが外国の方へ伝えたいという思いだったので、留学生を含め海外から来た方との交流イベントを五高記念館でやれたらうれしいです。それを通し、熊大生や地域の方と留学生が友だちになるきっかけにもなるし、また、外国人留学生にも「熊本大学に来てよかった」と感じてもらえるのではないかと思います。

★ナンバースクールって?

帝国大学へ進学する前の学生たちが学んだ教育機関。全国にありましたが、特に第一高等学校(東京)から第八高等学校(名古屋)までは「ナンバースクール」と呼ばれ多くの逸材が学び、別格視されていました。第五高等学校の卒業生には、内閣総理大臣を務めた佐藤栄作や池田勇人、劇作家の木下順二、物理学者の寺田寅彦など、そうとうな人物が名を連ねています。

熊大生へ! チームに参加してみませんか?

Instagramがコチャ



自分たちが発案し、工夫して作ったイベントが形になる時の誇らしさは格別。大学生生活の中で勉強以外にも力を入れた、とてもいい思い出になりますよ!



歴史が「得意」とか「苦手」とかは関係ないです。自分の企画が形になる、そんなおもしろい経験がしたいならteamCOCOROに参加してみ!



teamCOCOROのメンバーでクリスマス会

You are a citizen of the world!

大学で磨け! 国際感覚

——熊本大学のグローバル教育

「自分は a citizen of the world=世界市民である」という意識を持ち、グローバルコミュニティの一員として振る舞うために必要なのが「国際感覚」です。その感覚を支えるための多言語能力はもちろん、多様な価値観を尊重できる力を大学でできる限り身につけてほしい。熊本大学は、そのための留学制度をはじめ、大学内でも様々な国際交流の機会を設けています。

グローバル教育を担当する学長特別補佐で、熊本大学の国際教育を担っているシムズ・ランダー・ブライアント講師に話を伺いました。



熊本大学 学長特別補佐
大学院人文社会科学部 講師
シムズ・ランダー・ブライアント
Lander Bryant SIMS

自分の可能性を拡げてくれるそれが、「国際感覚」

アクティブラーニングを積極導入

国際感覚を支える要素のひとつは、やはり語学力だと思います。その中でも、国際共通語である英語力を高めるための取り組みの一例が、英語で様々な分野を学ぶMultidisciplinary Studiesです。各分野の内容を、英語によるアクティブラーニングで学べるため海外からの留学生にも人気が高く、多くの学生が受講しています。日本人学生にとっても、海外留学に近い環境で学ぶ貴重な機会となっています。私が担当している授業は、開始当初は15人程度の小規模なクラスでしたが、現在では約100人が受講するまでに広がりました。

大学受験のために高度な英語を学んだ大学生は、入学時点の英語力がピーク。そこから力が落ちてしまう傾向があります。そうではなく、大学でさらに英語レベルを上げることが理想であり、そのために英語を使う機会をできる限り多く提供しています。そして、大切なのは意見を持つことと、それを伝えられるコミュニケーション能力です。学生の積極性を引き出すアクティブラーニングは、外国人留学生がどんどん手を挙げる一方、日本人学生にとって最初はそれが難しい。でも、自分と同じ年齢の外国人留学生が積極的に発言する姿を見て、日本人学生もどんどん成長していきます。

国際交流課外活動や海外大学とのオンライン学習も

課外活動も様々で、英語なら、外国人留学生と日本人学生が楽しくおしゃべりする「イングリッシュトークモン」や、外国人留学生が母国の料理を紹介する「グローバルキッチン」なども開催。言語に関しては英語以外でも、たとえば韓国からの留学生と日本人学生をペアリングし、1対1でお互いの言葉を教え合う活動など

も行われています。

もちろん、可能なら海外留学もしてほしいと思います。生まれてからずっと熊本、または日本国内で暮らしてきた学生たちに、自分がまだ知らないずっと大きな世界があることを、身をもって知ってほしいと思うからです。そのため熊本大学も、様々な留学制度を準備しています。

しかし留学はお金がかかりますし、専門性の高い学部の学生にとって長期留学は難しい側面もあります。それを解決するために活用しているのが Collaborative Online International Learning、通称 COIL。海外の大学と協働で行うオンライン学習で、熊本大学では、たとえばスペインの大学で行われている授業と連携し、現地の教員や学生とともにグループワーク等を行っています。オンラインでの協働授業後、大学からの渡航費支援をうけて参加した熊大生たちをスペインに連れて行き、現地の学生と一緒に学習するプログラムも実施してきました。

言葉は、視野を広げる「窓」

外国語を話すのに、間違えるのは当然。そして発音だって、私はどうでもいいと思っています。英語圏以外からの海外留学生も、それぞれの国のそれぞれの英語発音でコミュニケーションしています。英語発音が日本人発音になるのは当たり前であり、それはむしろ自分のアイデンティティだと思ってほしい。大事なことは、伝えたい意欲です。

私が好きな言葉に、「自分の国が自分の部屋なら、言葉はその窓であり、使える言語が増えればその窓も増える。そうすれば、違う視点で物事を見ることができるようになる」というものがあります。留学は、そこにドアを作り部屋から出ていくこと。言語を含めた国際感覚の会得は、自分の可能性を広げることだと思っています。

思い切って飛び出してみよう!

留学制度

※熊本大学の留学経験者をP13-14で紹介しています。

留学制度の詳細はココをチェック!



■ 短期プログラム

夏休みや春休み期間中の約2週間~1か月間を活用し、協定校などで語学研修+文化体験に参加するプログラムです。

◎海外語学研修

語学研修、現地学生との交流や文化体験、視察等を組み合わせたプログラムです。IELTSやTOEFL等のスコア条件はなく、誰でも参加可能。成績基準等を満たした学生は給付型奨学金を受給できる場合があります。

◎サマープログラム

熊本大学の交流協定校が主催するプログラムです。協定校によってはプログラム費用や宿泊費用が割引または免除されることもあります。

■ 交換留学制度

熊本大学の学生交流協定校へ、約半年間から1年間の留学ができる制度。留学先での授業料は免除され、留学先で取得した単位は帰国後に熊本大学の単位として認定される場合があります。ただしIELTS等のスコア基準が高いため、早めの準備が必要です。

★積極的に活用しよう~奨学金制度

海外留学を支援する様々な奨学金があります。ここで一部を紹介しています。

◎日本学生支援機構

大学間や研究機関との学生交流協定に基づく留学に対し、留学費用の一部を支援する制度である「海外留学支援制度(協定派遣)」などが用意されています。

◎トビタテ! 留学JAPAN日本代表プログラム

留学計画を自分で作成し応募します。採用されると、毎月の奨学金のほか、渡航費や授業料の一部支援を受けられます。

このほか、熊本大学独自の海外派遣支援事業などがあります。



積極的に参加しよう!

国際交流活動

※熊本大学の国際交流活動はP15-16で詳しく紹介しています。

国際交流活動の詳細はココをチェック!



■ english-TALKmon (イングリッシュトークモン)

海外留学生と英語でのフリートークが中心の交流イベントです。

■ グローバルキッチン

海外留学生が母国の料理を調理。完成したらみんなで料理を囲み、英語で会話を楽しみます。

■ サークル

◎国際交流サークルC3

毎月3がつく日に、日本人学生と留学生が交流する活動を実施。日本と海外を問わず、様々な文化を楽しめるイベントを行っています。

◎日韓交流サークルKOGUMA

熊本大学の日本人学生と韓国人留学生が共に学び、交流するサークル。国や学習環境に縛られず、自由に言語学習を楽しむことを目的としています。



熊大生の留学——知らなかった世界で、知らなかった自分を発見!

大学のサポートで、留学に挑戦しやすいのも学生の特権。留学した熊大生4人を紹介します。

マレーシア



河村 龍さん
Ryu KAWAMURA
自然科学教育部
半導体・情報数理専攻 修士1年

留学先 マレーシア理科大学
(マレーシア/ペナン州)

留学期間 2023年10月～2024年3月

活用した制度 熊本大学交換留学制度/
熊本大学国際強化事業奨学金



マレーシア人の友人が地方にある実家に招待してくれたとき撮影した夕陽



丘の上にある寮から
毎朝見ることができた景色



イスラム教徒の割合が高いマレーシア。
外観が好きだったモスク

Q. 留学先ではどんな勉強を?

多様なカリキュラムから、留学生は自分の興味や専攻に合わせて選択できました。私は主な授業として、マレーシアの文学、歴史や地理、マレーシアを取り巻く環境、そしてマレーシア語などを学びました。また、授業1回に対してディスカッションやプレゼンテーションをするチュートリアルがあり、最初は言いたいことが英語でうまく言えずこの時間が憂鬱でした。しかし、今思えばこのおかげで語学力とコミュニケーション能力が上がり、投げ出さずによかったと思っています。

Q. 勉強以外にトライしたことは?

意識したのは、とにかく現地の学生とたくさん話すこと。時間のある時は現地学生が集まるワーキングスペースへ行ってよく雑談し、いつの間にか友だちも増えました。また、大学内の交流イベントにも積極的に参加。日本の文化や熊本大学について紹介する機会も何度もありました。

Q. 留学を経た自身の変化は?

一番変わったのは、「とりあえずやってみる」という気持ちを持てるようになったこと。留学前は英語に自信がなく、話しかけるのが不安でつい様子を見るが多かったですが、現地では自分から動かないと何も始まらないと感じました。加えて、いろいろな国や背景を持つ人とかかわる中で、考え方や価値観が違っても、それを尊重することの大切さも実感。留学は、自分の視野をかなり広げてくれたと思うし、今では、新しい環境に行くことや初対面の人と話すことへの抵抗感が減りました。

韓国



長谷川 瑞希さん
Mizuki HASEGAWA
文学部
総合人間学科 4年

留学先 ソウル市立大学校
(韓国/ソウル)

留学期間 2024年3月～2024年12月

活用した制度 熊本大学交換留学制度/
JASSO海外留学支援制度(協定派遣)



授業の一環で訪れた、北朝鮮との国境近くにあるDMZ(非武装地帯)



期末試験期間に、
みんなで図書館に行き勉強会



友人の家で出してもらった
参鶏湯やチヂミなどの韓国料理の数々

Q. 留学先ではどんな勉強を?

ソウル市立大学は交換留学生の韓国語能力を必要としておらず、特に欧米からは韓国語ができない学生が多かったため、交換留学生向けの講義はすべて英語で行われていました。私は主に交換留学生向けの講義を複数と、韓国語を学ぶ授業を履修。熊本大学での専攻である社会学に関係する、たとえば韓国の社会問題を幅広く扱う授業や、韓国と北朝鮮の関係や政治を学ぶ授業などを取りました。専攻に関係なく、言語学といった自身の興味に沿う授業が履修できたのも留学ならではの利点でした。

Q. 勉強以外にトライしたことは?

新しい人間関係の構築は得意なほうではありませんが、これほど多様な人に囲まれた環境は貴重だと思い、普段より積極的に人とかかわるようにしました。また、地方にもよく旅行しました。ソウルとはまったく違う街の雰囲気や現地の人との会話は、留学期間のなかでもかなり思い入れの深い経験です。

Q. 留学を経た自身の変化は?

もっとも大きな変化は、大学生活への意識が変わったこと。留学前は恥ずかしながら大学での学習にそれほどの意欲はなく、ただ単位を取って卒業することを第一に考えていました。しかし韓国で、試験期間とは関係なく夜遅くまで学校で勉強している多くの学生や、現地で出会った友人と話しているだけでも学習に対する熱意を強く感じ、大学生活を考え直す刺激剤になりました。他国からの留学生との交流では、自身の英語能力不足も感じ、英語への学習意欲も向上しました。

ポーランド



本田 梨紗さん
Risa HONDA
文学部
コミュニケーション情報学科 3年

留学先 ワルシャワ大学
(ポーランド/ワルシャワ)

留学期間 2025年2月～2025年7月

活用した制度 熊本大学交換留学制度/
業務スーパー・ジャパンドリーム財団奨学金



3つあるキャンパスのうち、
メインキャンパスの門



ピクニックで友人が作ってくれたのは
ポーランドの伝統的ケーキ



冬はスケートも楽しめる
ワルシャワ旧市街の広場

Q. 留学先ではどんな勉強を?

国際政治学部で、世界の政治や国際関係にまつわる多様な授業を履修。ヨーロッパがこれまで政治的にどのように統合されてきたかについての授業、気候変動や、気候変動に起因する世界の問題についての授業、ディスインフォメーションなど、現代を取り巻く情報セキュリティの問題について考える授業です。また、ポーランド語初級レベルの授業も受講。おかげで買い物のときなど、ポーランド語での簡単な会話が可能になりました。

Q. 勉強以外にトライしたことは?

ワルシャワ大学の日本語の先生とご縁があり、日本語を学ぶポーランドの学生たちに熊本や熊本弁についてプレゼンする機会をいただきました。また、日頃から互いの言語を教え合うなど、良い友人関係も構築。現地の学生とかかわる中で、海外から見た日本の魅力や強みなどを発見できました。

Q. 留学を経た自身の変化は?

留学前と比べて精神的に強くなったと感じます。未知の言語であるポーランド語が飛び交う中で、最初はどのように生活していけばいいのか不安もありましたが、英語での会話を試み、友人ができ、ポーランド語を学ぶ中でその不安も消え、日々の生活を楽しむ強さを手に入れることができました。生活面においても、とても清潔とは言えない寮生活や、日々自身の力不足を痛感することで、逆に物事はほどほどでいいし、細かいことは気にしない、なんとなくと考えられるようになりました。自分に厳しくしすぎないようになれたと思います。

イギリス



澤田 風杜さん
Kazato SAWADA
文学部
コミュニケーション情報学科 4年

留学先 ダラム大学
(イギリス/ダラム)

留学期間 2024年9月～2025年6月

活用した制度 熊本大学交換留学制度/
業務スーパー・ジャパンドリーム財団奨学金



ダラム大聖堂前で入寮式後に撮影



友人宅での一コマ



友人とよく行った
Observatory Hillからの眺め

Q. 留学先ではどんな勉強を?

心理学やビジネスを学びました。たとえば社会・発達心理学では、集団内の人間心理や行動・子供の脳の発達過程や行動等へ着目、臨床・差異心理学では性格・宗教観などによる差異や摂食障害・身体醜形障害等の臨床心理に着目して学習。ビジネススクールでは、グローバル企業における多様性の理解や従業員の意欲向上、人間関係等についてのケーススタディ、企業間における電子データ交換や、採用や成果報酬など人的資源管理などについて学びました。

Q. 勉強以外にトライしたことは?

日本の大学のサークルにあたるSocietyは、Anglo-Japanese SocietyやInstant noodle Societyなどに入りました。留学中にできた友人はほぼSocietyで出会い、現地学生のみならず他国からの留学生とも交流できました。留学前の就活で国際協力系の仕事にも興味を抱いていたので、SolidariTeeというチャリティ団体のダラム支部にも所属し活動。そのほかダラムの小学校での日本文化紹介や、捨て犬・捨て猫のお世話、フードバンクでのボランティアもやりました。

Q. 留学を経た自身の変化は?

文化の違いを前向きに楽しめるようになり、初対面の人との交流にも物怖じしなくなった気がします。多くの出会いを経験し、人との出会いを大切にしなければと感じるようになりました。また、ダラムの小学校でのボランティア活動で子どもたちの素直な反応を受けたことで自分の文化を誇りに思う気持ちが芽生えたと、与えてもらう立場から、社会に貢献する立場への意識の変化もあったと感じます。



～健児くんがお知らせ～

こんにちは! 熊本大学ウェブマガジン「熊大タイムズ」でリポーターをしている健児くんです。4人の留学体験でここに載せられなかった話を「熊大タイムズ」で紹介しています。ぜひ読んでみてください!



熊本大学の国際交流活動

——留学しなくても、交流のチャンスはいっぱい!

熊本大学には、学内で留学生と交流できる様々な機会があります。

今回は、多言語文化総合教育センターで行われている「イングリッシュトークモン」と「グローバルキッチン」、

そして、国際交流サークルである「C3」と「KOGUMA」を紹介します。

イングリッシュトークモン



カミラ・アゲロンさん

Camila AGERON

エクス=マルセイユ大学(フランス)より
教育学部に留学中
ブエノスアイレス(アルゼンチン)出身



最初は緊張しても、必ず共通の話題は見つかります

Q. なぜ活動に参加を?

私は人とおしゃべりするのが好きで、イングリッシュトークモンのような活動に参加すれば、自分が知らなかった世界の人の新しい出会いがあると
思ったからです。

Q. 活動に参加していかがでしたか?

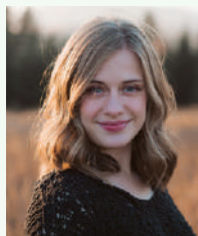
日本人学生やほかの留学生と話していて、好きな音楽など、楽しめる共通
の話題に国籍は関係ないと実感しました。そして熊大生は、英語でも日本
語でも、会話にとっても積極的。そしてフレンドリーでもありますね。

Q. 熊大生や高校生にメッセージを!

言語習得には、その言語による動画や音楽など、コンテンツをたくさん見たり
聴いたりすることがお勧め。好きな言語のものなら、学ぶことがより楽しくな
りますよ。そして、間違いこそ上達への道です。間違ふこと、間違いを指摘され
ることを恐れなくてほしいと思います。

- 開催日時▶ 毎週月・水・金曜日 13:00~14:00 ※休講日、補講日、試験日を除く
- 場 所▶ 黒髪北地区・多言語文化総合教育棟1階 交流ラウンジ
- 参加方法▶ 事前登録や予約は不要。お気軽にご参加ください!

グローバルキッチン



ジュリア・ブランエンさん

Julia BRANEN

モンタナ大学(アメリカ)より
教育学部に留学中
アイダホ州モスコ(アメリカ)出身



料理中のジュリアさん



みんなで料理と会話を楽しみました



みんなに大好評だった
フィリチーズステーキ

Q. どんな料理を作ったんですか?

ペンシルベニア発祥の料理、「フィリチーズステーキ」です。炒めた玉ネ
ギ、ピーマン、ステーキを挟んだサンドイッチに、上からチーズをかけたもの。
約2時間の料理中、参加学生がいろんな質問をしてくれたのでアメリカ文化を
紹介できたし、みんなが初めて食べる料理を楽しみにして、手伝いもしてく
れ、活気にあふれていました。食事での会話も弾み、言葉の壁があっても笑
い合い楽しい時間を過ごせるとわかりました。違う国々から来た人々が、私の
料理を楽しみながらおしゃべりする姿を見るのはとても楽しかったです。

Q. 日本人学生をどう思いますか?

新しいことへの挑戦や、異文化を学ぶことにとても積極的。最初は少し
控えめかもしれませんが、私やほかの外国人留学生が会話に誘ったり、
キッチンでの手伝いをお願いすると喜んで参加してくれました。新しい人との
出会いは緊張するもので、しかも言語や文化の違いがあると特にそうで
すが、それらの壁を乗り越えてつながりを作ることは大切だと思います。

Q. 熊大生や高校生にメッセージを!

初対面の気まずさというものを怖がらず、受け入れてほしいと思います。
緊張しているのは相手も同じだから。そして、失敗しても大丈夫。自分から
行動することを人は評価してくれるし、失敗から多くのことを学べます。

So put yourself out there and try even when you're nervous because
you will grow a lot from those experiences.

- 開催日時▶ 不定期(SOSEKI掲示板上等で随時告知)
- 場 所▶ 黒髪北地区・多言語文化総合教育棟1階 交流ラウンジ
- 参加方法▶ 開催案内記載の申し込みフォームによる事前申込制(参加費1人1@500円)

国際交流サークルC3



吉國 綾さん

Aya YOSHIKUNI

理学部 理学科1年



玉名市で開催されたビーチサッカー大会



2025年の紫熊祭。
C3のオリジナルジュースを販売



海外留学生もたくさん参加してくれた
ハロウィンイベント

Q. どんなサークルですか?

C3は、Cross Cultural Communicationの頭文字。日本人と外国人留学生
の交流を目的としていて、季節イベントのほか様々な活動を行っています。何
をするかはサークルの幹部での話し合いや留学生へのアンケートから決定。
英語力の有無にかかわらず、初対面だった人同士が、帰る頃には友だちにな
っているようなサークルです。

Q. 印象に残っている活動は?

みんなで参加した、玉名で行われたビーチサッカー大会です。最初は
ビーチサッカー特有のルールをどう英語で伝えるか思案しましたが、いざ
試合が始まると、みんなでボールを追いかけて、盛り上がりました。シュートを
決めた喜びやパスが繋がったうれしさは特別で、スポーツは言語の壁を
越えたと肌で感じました。

Q. 外国人留学生を含む熊大生へメッセージを!

毎月3がつく日に実施するイベントは、Instagramやメール、LINEで告知
しています。飛び入り参加も学外の学生も、友だちと一緒にでも一人での参加
でも、とにかく大歓迎!質問等があれば、C3のInstagramにDMをいただけ
ると嬉しいです!

C3のInstagramはこちら



日韓交流サークル KOGUMA



江頭 扶実子さん

Fumiko EGASHIRA

教育学部
特別支援教育コース4年



韓国好きと日本好きが集まっています!



多言語文化総合教育センターの
ラウンジでの活動風景



紫熊祭ではチヂミやジュースを販売
ラウンジでの活動風景

Q. どんなサークルですか?

熊本大学内の日本人学生と韓国人留学生が共に学び、交流するサークル
です。国や学習環境に縛られず、自由に言語学習を楽しむことを目的として
います。集まっているのは、「友だちを作りたい」「韓国語を学びたい」「いつか
留学してみたい」、そんな思いを持つ学生たち。週2回の定例会のほか、半期
ごとの歓迎会やクリスマスパーティーなどのイベントも開催。韓国・釜山の東
亜大学日本語サークルとオンライン交流会も実施し、語学学習にとどまらず、
異文化理解や友情を育てています。

Q. これまでに記憶に残った活動は?

KOGUMA発足後初の大きな企画だったクリスマスパーティーです。企画内
容を一から考え、形にしていく過程は想像以上に難しく、日韓どちらの学生も
同じように楽しめる工夫や、クリスマスらしい雰囲気づくりなど、運営メンバー
全員で試行錯誤を重ねました。手探りの連続でしたが、当日は多くの学生が
参加してくれ、最後まで無事にやり遂げることができました。サークルとしての
一体感や、交流の場をつくる意義を改めて実感させてくれた出来事でした。

Q. 外国人留学生を含む熊大生へメッセージを!

ちょっと気になる、少し話してみたい、という小さなきっかけが、思いがけな
い出会いや学びにつながることも。興味ある活動に参加してみたら、新しい世
界がふっと広がる瞬間をきっと楽しめると思います。KOGUMAもそのひとつと
して温かくお迎えします。

KOGUMAのInstagramはこちら



海の生物の行動や生息背景を明らかに。 多様性や水資源維持にも貢献！



山田勝雅准教授率いる山田研究室では、海洋生態学や生物多様性をキーワードに研究を行っています。海のある場所にある生物がいる場合、その種がどんな環境にさらされた果てにそこに生息しているのかを、物理的な環境変動や、生物同士の競争や捕食といった種間相互作用を見ることで科学的に証明する研究です。
所属する学生たちの研究対象は様々で、海生哺乳類であるイルカ、カサゴなどの魚類、アサリなどの貝類をテーマにしている学生もいれば、沿岸域のアマモという

藻がある場所を生息場とする動物群集の構造解明といったテーマも。山田准教授は、「研究を通して、それら生物がどうすれば自然環境下で増えていけるのかを明らかにすることも目的。私は水産研究所に勤めた経験もあり、理学研究をベースにしながら水産学的、応用理学的な側面も大切に研究しています」。生物多様性を維持しつつ水産資源も持続的に利用できる、そんな社会づくりに貢献することを目指しています。

理想的な実験の場～ 合津マリンステーション

山田研究室の拠点である熊本大学の合津マリンステーションは、目の前が海。ここから船で調査にすることもできます。また、ステーションから歩いてすぐのところには、様々な生き物を陸から観察できる岩礁潮間帯や有明海ならではの干潟も広がっています。建物の1階には蛇口から海水が出る設備があり、採取した生物の行動観察を水槽で行っています。



メンバー構成
准教授1名、大学院生5名(博士課程1名、修士課程4名)、学部生4名

- 論文テーマ(一部例)
- 修士論文
■魚類群集と生息場であるアマモの季節消長の関係
 - アマモ場の小型無脊椎動物群集の機能的多様性と環境フィルタリング
 - 卒業論文
■有明海に生息するカサゴの色彩変異と生態的特徴の関係
 - 貧酸素前後の群集構造の変化:有明海の底生動物群集形成に寄与する環境要因と空間構造の相対的重要性の評価

理系に不可欠な卒論は社会人になるための大切なステップ

上天草にある合津マリンステーションは、私たちが研究対象とする生き物が生息する海が目の前にあり、対象に向き合いじっくりと観察できるだけでなく実験もやり放題という、これ以上ない研究フィールドだと思っています。そんな場所で学生が自由な発想で楽しく研究することを、後ろからうまく誘導することが私の役割です。
理学部を卒業するには必ず卒論を完成させなければいけません。ひとつのテーマに向かって自分でストーリーを作り、自分でデータをとって説明するといったプロセスを経験することになります。それを通し、学生は本当に変わります。卒論は、単純に研究のためではなく、社会人になるための良いステップ。その中で少し道がそれるようなときは私が軌道修正をしますが、そうすることで実は私も、学生たちと共同研究をしている、お互いに成長していると感じています。



山田勝雅准教授
●くまもと水循環・減災研究教育センター
●熊本大学大学院自然科学教育部
理学部生物学コース

天草ならではの！ イルカ研究で 充実の毎日



理学部4年
園田 笙さん
Sho SONODA

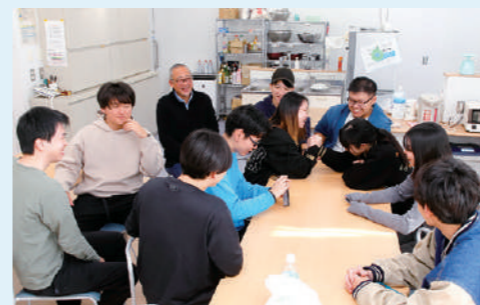
子どもの時から生物の進化や多様性に興味がありました。大学受験の時に熊本大学のことをいろいろと調べ、海の多様性などを研究対象にしている山田准教授の研究室に興味を持ち、入学前から研究室に入りたいと思っていました。
卒論テーマは「天草五和町におけるミナミハンドウイルカの群れの分布と行動」。天草市五和町の通詞島周辺に生息するイルカが対象です。捕獲したり触ったりすることはできないので、ドローンを飛ばし空から群れの形や行動を観察しています。観察の際は合津マリンステーションに来るのですが、ここで一緒に過ごす研究室の先輩後輩たちはみんなすごく楽しい人ばかり。海や生き物が好きなら、山田研究室はお勧めです。

流れ藻の解析から 生物分散の背景を探る



理学部4年
原 颯汰さん
Souta HARA

高校生のころから生物、特に進化論が好きで、生物多様性をテーマにしている山田研究室に入りました。生物研究の切り口は様々で、たとえば細胞や遺伝子から解析するような研究もありますが、私はどちらかというと、生き物を行動や生態から研究したいと感じており、山田研究室は自分にぴったりでした。
現在卒論にする材料として、流れ藻と生物分散の関係を見ています。生息していた藻場から離れて海を漂っているのが流れ藻で、その藻に付着している生物の組成を解析する研究です。たとえばワレカラという甲殻類は、八代海で採取する藻にはたくさん付着しているのに、有明海ではそれほど多くありません。つながっている八代海と有明海でなぜ違うのか、その理由を明らかにするのも興味深いと考えています。



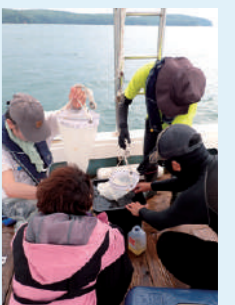
合津マリンステーションでは、みんなでワイワイと楽しく過ごす時間も



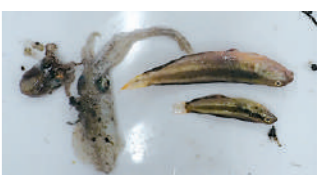
ドローンを活用し海を観察



船上で生物の採取や海洋観測を実施



合津マリンステーションでは、全国から大学生が集まる公開実習も実施。全員で地引網を行い、生物を採取しました。



卒業生 ジャーナル



国内外の様々な分野で活躍する熊本大学の卒業生たち。
彼らはどんな学生時代を過ごし、どんな夢を持ち社会に出て、
今、どんな世界で頑張っているのでしょうか。

薬学部

大場 誉徳

Yasunori OBA

勤務先

アステラス製薬株式会社 プロダクトリサーチ&デ
ベロップメント 原薬研究所(茨城県)

卒業

薬学部薬科学科 / 2008(平成20)年3月卒業
大学院薬学教育部博士前期課程分子機能薬学専攻
生体機能分子合成学 / 2010(平成22)年3月修了

Profile

1984(昭和59)年生まれ、福岡県田川郡出身。福岡県立田川高等
学校卒業。仕事で疲れた後はサウナに行って疲れを癒してい
ます。ただ、これまで一度もととのったことがないのが悩みです。



新薬を世に出す大変な仕事

良い薬を多くの人に届けたい、その思いが支え

大学4年で研究室に配属されてから抗がん剤を研究。それをもう少し続けたいと大学院へ進学しまし
た。苦労もありましたが、修了間近に目的化合物の合成に成功し、初めて自分で作った薬だと、とても感
動したことを覚えています。就職は0から薬を作り出す創薬化学を志していましたが、就職活動を進め
ていくうちに、今の職業であるプロセス化学という分野を知りました。プロセス化学とは、薬の製造方法
を検討し、いかにうまく製造するかを追求する仕事。たとえば既存の合成方法から、まったく新しい合成
ルートに変更することで製造工程を減らしコストを半分以下にすることが可能です。

新薬を作り出すことは非常に楽しく喜びを感じます。一方で、候補となった薬の種のうち、ごく一部し
か世に出すことができない非常に厳しい世界でもあり、自分が携わっていた薬の種の開発がストップし
たときは悲しくなります。しかし、多くの人に良い薬を届けたい、その思いを支えに頑張っています。ど
んな仕事も楽しくやるのが大切。高校生の皆さんも、自分が好きなことは何なのか、何をやりたいかを
大学生活の中で見つけてください。意外と、ふとした遊びの中から見つかることもあるので、よく学び、
かつよく遊ぶことが大事です。

教育学研究科

佐藤 遥

Haruka SATO

勤務先

南小国町立市原小学校(熊本県)

卒業

熊本私立ルーテル学院大学人文学部人文学科キャリ
ア・イングリッシュ専攻 / 2022(令和4)年3月卒業
熊本大学大学院教育学研究科(教職大学院の課程)
教職実践開発専攻 / 2024(令和6)年3月修了

Profile

1999(平成11)年生まれ、熊本県阿蘇郡出身。熊本私立ルーテル学院高等学校卒業。
コーヒーを淹れることが大好きで、毎週土日は必ず自分で淹れます。コーヒー
ショップを巡り、様々な豆を購入して味わうことが週末の癒やしになっています。



自分が子どもたちから元気をもらう やりがいと責任ある仕事

大学卒業後、もっと自信を持って学校現場に立ちたいと熊本大学教職大学院に進学しました。大学時
代、英語教育の勉強を通してフィンランドの英語学習や教育課程に興味を持っており、大学院ではフィン
ランドの義務教育学校に行くこともできました。現在は、2年連続で小学校3年生を担当。大学や大学
院時代に培った、子どもや地域の実態に合わせて授業をつくる力が役立っています。学級経営に関して
は、子どもの話をしっかり聞き、受け入れ、子ども同士が認め合うことができる、自分で考案することが
できる学級づくりにチャレンジ。授業では、私が研究した教材を使い、「わからない」と言っていた子ども
が「わかった！できた！」と言ってくれると喜びを感じます。私が子どもたちに元気をもらうことも多
い、やりがいのある仕事。一方で、自分の行動や発言が子どもに影響を与える、大きな責任を伴う仕事でも
あります。

高校・大学・大学院と、様々な分岐点で選択をし続けて今の自分がいます。高校生の皆さんには、どの選
択も自分が選んだのなら自信を持って突き進んでほしいし、思い立ったら何事にも挑戦してほしいで
す。時間がある大学時代にしかできないことがたくさんあると思うので、「今」を大切にしてください。

工学部

林 興平

Kohei HAYASHI

勤務先

カナデビア株式会社 生産技術部(大阪府)

卒業

工学部機械システム工学科 / 2016(平成28)年3月卒業
大学院自然科学研究科博士前期課程機械システム
工学専攻 / 2018(平成30)年3月修了

Profile

1994(平成6)年生まれ。福岡県糸島市出身。福岡県立城南高等
学校卒業。趣味は攻略難易度の高いゲームをやることと資格の取
得です。最近では溶接管理技術者、土木施工管理技士の資格を
取得。現在は電気主任技術者の資格取得に向けて勉強中です。



ロボット関連の仕事を目指し工学部へ 今も日々学び続けています

高校時代はロボット工学に興味があり、将来ロボット関連の仕事に携わりたいという思いから熊本
大学の機械システム工学科に進学しました。大学院での研究は溶接接合に関するもので、主に溶接試験
体の組織観察や組成分析を行っていました。現職に就いたのは、その研究室で日立造船(カナデビアの
旧社名)と共同研究をしていたことがきっかけ。研究室で学んだことを仕事に活かしたいという思いか
ら就職を決めました。ただ、実際に仕事に就いてみれば、大学時代に学んだ知識だけで実務を遂行する
ことは難しいと痛感。社会人になっても学び続け、時には周りの人から知識や知見を吸収し、日々スキ
ルアップすることが大切だと感じています。

入社8日目ともなると主担当を任されるが増え、重たい責任のしかかってきますが、仕事をや
り遂げた時の達成感は何物にも代えがたいです。現在は溶接ロボットを用いた新溶接技術の工場導入
に向けて頑張っていますが、時に何をやっても思うような成果が出ないことも。そんな時は、考え込み
すぎず、思い切って業務をスパッと切り上げてみると、案外次の日にいい解決策を思いつくこともよく
あります。皆さんも無理せず頑張ってください。

医学部

篠原 彩恵

Sae SHINOHARA

勤務先

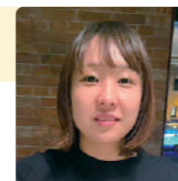
キャノンメディカルシステムズ株式会社 アプリケー
ショングループ X線装置担当 九州支社(福岡県)

卒業

医学部保健学科放射線技術科学専攻 / 2018(平成
30)年3月卒業
大学院保健学教育部保健学専攻 / 2020(令和2)年
3月修了

Profile

1996(平成8)年生まれ。熊本県八代市出身。熊本県
立八代高等学校卒業。バイクが趣味で、休日は大型
バイクでのツーリングを楽しんでいます。



医学・放射線学を修め一般企業へ 検査装置の営業やアフターフォローに従事

大学では、医学と放射線技術について専門的に学びました。放射線治療に興味があり、専門資格を取得
するために大学院に進学。大学院ではマンモグラフィの研究をし、国内・海外での学会発表を経験しまし
た。研究はうまくいくことばかりではなく苦しい日もありましたが、論文がアクセプトされたときの喜
びは今も忘れられません。お世話になった教授とは卒業後も交流があり、たまに人生相談をしています。

医療機器メーカーの仕事に興味を持ったきっかけは、会社勤めをしている先輩から話を聞いたこと。
現在は、血管撮影装置とマンモグラフィの営業、アフターフォローを担当しています。血管撮影装置の
フォローでは、病院の循環器内科・脳神経外科・放射線科の医師や放射線技師へ装置の使い方を説明した
り、検査や治療がスムーズにいくようサポートしたりすることが主な仕事。大学時代に学んだ医学、放射
線の知識が生かれています。医師や技師から感謝の言葉をいただくことが一番の喜びである一方で、
日々進化する医療知識を学び続けなければならない大変な仕事でもあります。医学部には、病院に就職
する以外にも様々な選択肢があることを、高校生の皆さんにはぜひ知ってほしいと思います。

法学部

大津 有紗

Arisa OTSU

勤務先

KMバイオロジクス株式会社 法務コンプライア
ンス部法務課(熊本県)

卒業

法学部法学科 / 2024(令和6)年9月卒業

Profile

2002(平成14)年生まれ。熊本県熊本市出身。熊本
学園大学付属高等学校出身。ワインの奥深い世界に
魅了され、休日はワイナリー巡りを楽しんでいます。
産地ごとの個性や造り手のこだわりを感じながら、
豊かな時間を過ごすのが好きです。



人の命を守る使命ある企業 法務の立場でその一翼を担う

高校時代、地域の声を政策に反映させる市議会議員に憧れ、その夢の実現には法律の知識が不可欠だ
と考えたことが熊本大学法学部へ進学した理由。大学では憲法のゼミに入り、法の根幹を学びながら議
論を重ねる日々を過ごしました。勉強以外では、熊大生協組織部や法学部行事実行委員として、仲間と共
に様々なイベントを企画・運営。人と人をつなぎ、組織を動かす経験を積むことでコミュニケーションや
調整力の重要性も学びました。

勤めているKMバイオロジクスは、ワクチン製造企業として、社会の安全と安心を守るために不可欠な
製品を提供し、公衆衛生を支える重要な役割を担っています。「人々の命を守る」という使命に深く共感
し、法務の立場から企業活動を支え、その使命を実現する一翼を担いたいと考えました。現在は、各部
署で締結される様々な契約書のチェック依頼や相談などに対し、依頼者に背景を確認しながら、法令やビ
ジネスの観点から対応する仕事をしています。私が作成する契約書や法的判断は、研究開発や製造、そし
てワクチンを必要とする人々のもとに安全に届けるための「見えない力」になっています。自分の仕事
が、世界の人びとの健康と安心を守る一部になっていると感じられることが最大のやりがいです。

文学部

田中 瑞希

Mizuki TANAKA

勤務先

大分県庁 生活環境部 人権尊重・部落差別解消推
進課(大分県)

卒業

文学部コミュニケーション情報学科現代文化資源
学コース / 2023(令和5)年3月卒業

Profile

2000(平成12)年生まれ。大分県大分市出身。大分
県立舞鶴高等学校卒業。昨年スキューバダイビング
のライセンスを取得し、今年の夏は宮崎県延岡市で
潜ってウミガメを見ました。



行政で働くうえで生きている 大学時代に得た社会学の知識

大学時代にコロナ禍となり、暇だったときにふらりと立ち寄った書店でなんとなく目に付いたのが
フェミニズムの本。それを読んだことをきっかけにフェミニズムにはまり、研究していました。今思えば
まったく足りていませんでしたが、当時はなるべく多くの本を読もうと心掛けていました。コロナ禍で
計画していた留学や思い描いていたサークル活動ができなくなったことなど、予想外なことが多い大学
生活でしたが、そのおかげでゆっくり学ぶことができたので、それはそれで良い思い出です。

現在は大分県庁で、課の予算や議会等を担当しています。性的少数者の人権や女性の人権を考える場
合に社会学の知識は不可欠であり、大学で学んだことが大いに役立っています。本を読む習慣は社会人
になっても続いているので、大学時代に培ってよかったと思います。大学には広く深い学問の世界
や、アルバイト、旅行など、高校よりはるかに自由度が高い世界が広がっています。入試に向けた勉強は
長くつらいものだと思いますが、努力を重ねたその期間は何物にも代えがたい大切な期間になるので、
先の未来を想像しながら頑張ってください。

理学部

石原 明日斗

Asuto ISHIIHARA

勤務先

農林水産省九州農政局 総務部会計課(熊本県)

卒業

理学部理学科 / 2022(令和4)年3月卒業
大学院自然科学教育部生物化学コース博士前期課
程 / 2024(令和6)年3月修了

Profile

1998(平成10)年生まれ。鹿児島県伊佐市出身。鹿児
島県立加治木高等学校卒業。大学、大学院を修了後現
在も熊本で働いています。趣味は料理、ゲーム。最近
はサウナにはまり、休日には温泉ばかり行っています。



生まれ育った九州の農林水産業を 支える仕事を選択

高校時代は生物と化学が好きで選べなかったため、3年生で専門を選ぶ1学科制の熊本大学理学部
に進学しました。1年生の時は毎日1限から5限まで詰め込んで学業に励み、2、3年生になると空き時間に
バイトができるようになったことでお金もできたため、友人たちと朝まで遊んだり、旅行に行ったりして、大学生
生活を満喫しました。コロナ禍で海外旅行に行けなかったことだけが心残りです。研究室配属後は、上天草市に
ある合津マリンステーションでハクセンシオマナキを研究。1年間の研究では足りなかったことと、修士号を取
得することで就職の幅が広がることから大学院へ進学しました。

就職は、国産の農畜産物が大好きだったこと、日本の農林水産業が抱える問題について全国規模で取り
組むことができること、中でも生まれ育った九州の農林水産業をより中心的に支えていけることから農林
水産省九州農政局を選びました。現在は、職員が必要とする物品や業務の調達を担当。生産者と直接かか
わることはありませんが、私が担当した物品や業務調達でイベントや業務が行われるたび達成感があります。
行政文書の作成や上司に説明する際、論文や発表会で培われた文章力やプレゼンテーション能力は現在も
役に立っています。

熊本大学 OFFICIAL GOODS

熊本大学オリジナルのグッズがいっぱい！
使って身に着けて、熊本大学を応援してください！

熊本大学では、「バンカラ」で知られた旧制第五高等学校の制服を着たくまモンデザインのグッズなど、多くのグッズを販売しています。

1 キーホルダー

五高のマントと高下駄姿のくまモンと、夏服のくまモンの2種類。



横3.5cm×縦6cm 1個 **440円**

2 ピンバッジ

洋服や小物に付けてもかわいい。



横1.5cm×縦2.5cm 1個 **690円**

3 むいぐるみストラップ

ぶつくりとしたくまモンがキュート。ボールチェーン付き。



高さ約12cm×幅約12cm 1個 **1,300円**

4 マフラータオル

熊大カラーに熊大口ゴマークが入ったデザイン。応援グッズにも。



長さ115cm×幅20cm 1枚 **1,100円**

5 熊大Tシャツ

前面に英語表記の熊本大学の名と、前身校のひとつである旧制第五高等学校の設立年をあしらっています。白と紺の2色。



サイズSS・S・M・L 1枚 **1,500円**

6 植物染めハンカチ

熊本大学の剪定された桜の木の枝を使い、環境にやさしい染色方法で染められています。



横22cm×縦22cm 1枚 **1,200円**

7 金のしおり

五高記念館が24金の表面加工でデザインされています。さびにくく長くお使いいただけます。



横3.5cm×縦8.5cm 1個 **786円**

8 クリアホルダー

五高記念館と熊本大学のロゴマーク入り、4色あり。



A4サイズ 1枚 **84円**

9 お守り型ストラップ

熊本大学大学院先端科学研究部と東京大学大学院工学系研究科との部局間連携協定記念に作られました。



オモテ ウラ 横3.5cm×縦5cm 1個 **700円**

10 付箋

お守り型ストラップ同様、部局間連携記念に作られました。



(付箋本体)横7cm×縦7cm 1個 **420円**

11 メモ帳

熊本大学と東北大学との大学間連携協定記念に作られました。



横7.4cm×縦10.5cm 1個 **350円**

12 マスキングテープ

くまモンと赤門、キャンパスミュージアム、くまモンと東北大学広報活動キャラクター研一(けんいち)のコラボデザインの3種類があります。



テープ幅15mm×テープ長さ5m 1個 **330円**

上記以外にもさまざまな熊大グッズを販売中です。※価格は2026年1月時点のものです。すべて消費税込みです。

グッズに関するお問い合わせ **熊本大学生協同組合** TEL.096-343-6321

HPはこちら



熊本大学基金よりお知らせ

熊本大学基金へのご協力に感謝し、心より御礼申し上げます。

No.68(令和7年9月1日～令和7年12月31日)

熊本大学基金に対しまして、深いご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。皆様からのご寄附は、本学の教育研究の充実、学生支援、環境整備等、幅広く活用させていただいております。今号では、令和7年9月1日から令和7年12月31日までの間に入金を確認させていただきました個人427名、26法人・団体のすべての寄附者の皆様へ感謝の意を込め、ご芳名を掲載させていただきます。また、万一お名前に記載漏れがある場合は、誠に恐縮でございますが、基金運営室(電話:096-342-3129)までご連絡ください。皆様のご更なるご支援とご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。 ※お名前・寄附金額の公開の許可をいただいた方のみ、寄附金額別、五十音順、敬称略にて掲載させていただきます。 ※()内の数字は、累計寄附金額(万円)、[]内の数字は、累計寄附回数(回目)です。

令和7(2025)年9月

1. お名前・寄附金額の掲載

【100万円】 小林 功(100) 西田 治義(1000)
【40万円】 日本中央競馬会(210)
【20万円】 後藤 優太(20)
【10万円】 大津 敬一朗(300) 増田 武信(50)
熊本大学工業会熊本支部(90)
【5万円以下】 大橋 茂博(3) 岡部 和利(18) 権藤 隆史(1)
近藤 光弘(13) 田尻 俊次(1) 中野 和夫(2)
宮川 淳一(1) 宮本 真次(15.4) 村上 俊樹(1.5)
横林 清(3) 横松 孝(2)

2. お名前のみ掲載

一安 秀範[12] 川竹 成稔[1] 木山 邦博[2] 坂本 亮二[1]
篠島 直樹[3] 寺本 久雄[2] 波多野 恭行[40] 旗生 康之[2]
堀池 奈月[1] 松本 真一[4] 丸野 陽一[11] 山本 政幸[5]
吉元 裕一[1] 株式会社ダイセル[6] 株式会社肥後銀行[15]

3. お名前・寄附金額の掲載を希望されなかった寄附者の皆様

個人35名、3法人・団体

令和7(2025)年10月

1. お名前・寄附金額の掲載

【1000万円】 村上 友弘・百江・誠一(1000)
【55万円】 大久保 弘人(100)
【50万円】 山田 和彦(280)
医療法人社団順幸会(53) 堤化学株式会社(1160)
【6万円】 春野 政虎(6)
【5万円以下】 小川 久雄(101) 宮本 真次(16)

2. お名前のみ掲載

安倍 昂洋[4] 荒川 勝徳[3] 猪島 一朗[1] 河原 崇浩[1]
工藤 直樹[2] 酒井 文典[2] 眞田 功[6] 竹下 一幸[1]
中村 裕一[3] 沼田 伸一[2] 波多野 恭行[41] 平岡 一男[1]
牧 明[1] 町田 博邦[1] 柳田 敏孝[20] 山下 福嘉[2]
横手 公博[4] 渡邊 圭祐[3]
医療法人相生会[2] 医療法人やない小児科クリニック[1]

3. お名前・寄附金額の掲載を希望されなかった寄附者の皆様

個人38名、2法人・団体

令和7(2025)年11月

1. お名前・寄附金額の掲載

【20万円】 小川 久雄(121)
【10万円】 西野 宏(40)
【5万円以下】 原 正大(6) 宮本 真次(16.1) 本島 昭男(32)

2. お名前のみ掲載

阿久津 知美[1] 有村 忠男[1] 家村 和千代[9] 猪俣 裕紀洋[1]
岩下 祐介[1] 大久保 秀洋[1] 岡本 哲夫[7] 甲斐 幸一[1]
園木 英夫[1] 園田 寛[7] 戸塚 誠司[8] 鍋倉 康文[4]
西村 洋介[2] 平田 明子[1] 福山 紳[1] 古谷 秋文[10]
樹永 幸介[1] 宮尾 尚[1] 本島 知子[3] 山本 政幸[6]
渡辺 啓子[1] 医療法人末永会[1]

令和7(2025)年12月

1. お名前・寄附金額の掲載

【264万円】 熊本大学医学部医学科後援会(3128)
【20万円】 近藤 翔平(20) 平井 俊範(21)
【5万円以下】 大西 伸司(1) 趙 江峰(0.3) 長岡 展生(1)
中島 勝(2) 中牟田 まりこ(2) 西原 和洋(1)
藤岡 明(55) 古川 憲治(35) 本郷 弘昭(2)
宮尾 千加子(56) 宮本 真次(16.2) 村上 公輝(6)
本吉 大介(7)

2. お名前のみ掲載

浅山 縁[2] 荒金 真史[1] 磯田 淳[1] 岩井 由起子[1]
岩崎 竜之[2] 上田 一生[11] 牛島 一男[1] 江上 寛[4]
大久保 博[1] 大久保 洋一[1] 大谷 順[4] 大平 慎一[3]
岡崎 美知治[15] 尾方 富美代[1] 岡本 洋一[3]
小田 恭朗[1] 折田 頼尚[2] 織部 安裕[6]
郭 悠[2] 加瀬 ゆかり[1] 川口 辰哉[3]
菊田 浩一[1] 木村 裕一[1] 木山 邦博[2] 草野 龍二[22]
園武 雅司[3] 古賀 ともし[1] 児倉 静二[3] 小島 駿一[1]
坂上 拓郎[1] 坂本 亮二[2] 佐々木 和博[1] 佐野 壽[2]
猿渡 慶一[2] 島 章人[1] 高松 一成[1] 高森 善一[1]
竹松 久明[1] 田崎 雅義[1] 堤 隆一郎[1] 富澤 仁一[8]
長田 健[1] 中島 誠[13] 長田 健一[4] 名取 瑞樹[1]
西牟田 康博[8] 西村 章[3] 西森 実[1] 濱田 聖子[2]
林 義智[1] 原口 洋吾[4] 久富 弘基[1] 百武 航[1]
福井 自由[1] 福島 聡[1] 堀田 勝利[1] 本田 護[1]
本田 亮太[1] 前田 昌史[1] 牧野 幸司[1] 松尾 大輔[1]
松本 聡史[1] 松本 卓也[1] 水田 博志[3] 水本 誠一[1]
峰 修二[1] 三宅 雅人[1] 村田 寛治[1] MonzoN[1]
矢野 登久男[10] 矢吹 光二[1] 山田 邦彦[1] 山本 政幸[8]
横井 秀基[1] 吉田 いくこ[2] 吉村 幸一[1] 吉村 正徳[1]

3. お名前・寄附金額の掲載を希望されなかった寄附者の皆様

個人141名、1法人・団体

基金の取り組み事項については、
基金ウェブサイトに掲載しております。

熊本大学基金ウェブサイト
【URL】 <https://kikin.jimu.kumamoto-u.ac.jp/>



熊本大学基金 検索

熊本大学クラウドファンディング

多くのご寄附・ご支援をいただき、以下のとおり達成いたしました。

プロジェクト名 **血液検査でがんの早期発見・再発予測に挑戦！
新技術の社会実装を推進**

募集期間 2025/8/1(金)～2025/9/29(月)

寄附総額 11,659,000円 寄附者数 377名

ご芳名掲載先 <https://readyfor.jp/projects/i-Scan>

※支援者様のご芳名は、プロジェクトページの「活動報告」に掲載しております。



Giving Campaign 2025

110大学が参加した、学生による資金調達イベント「Giving Campaign 2025」において、多くの応援・ご支援をいただき、110大学中7位の成績を収めました。

応援投票数 14,803名

寄附総額 2,551,110円 寄附者数 270名

熊本大学Giving Campaign 2025
<https://kumamoto-u.2025.giving-campaign.jp/>



熊本大学メールマガジン登録受付中!

熊本大学のニュースやイベント情報、最新の研究成果、WebマガジンやYouTubeの更新情報等をお届けしています。ぜひご登録ください!

登録方法はこちらをご覧ください



熊本大学公式SNS

熊本大学の最新情報はここから!

X(旧 Twitter)



YouTube



Instagram



広報Webサイト

Webマガジンなど様々なコンテンツを掲載!

Kumadai Now 熊大Now





大坂城攻めはすべてけりが付いた。

熊本大学内の小道をゆく。

バス通りから赤門を抜け黒髪北キャンパスに入ると、遊歩道のすぐ右手の木々の先に小さな建物がある。こじんまりとした佇みの中で大きな歴史研究がなされている。そこは熊本大学永青文庫研究センターである。

永青文庫とは江戸時代に肥後(熊本)を統治した細川家の古文書、書籍、絵図、地図等のことである。それらは公益財団法人永青文庫が所有し熊本大学附属図書館に寄託されており、本センターで研究されている。昨年、その資料から9,346点が一挙に国の重要文化財に指定された。一挙に9,000余点の重要文化財の在る大学となったことに驚いたものである。総点数57,700余点を研究中であるので、この先、何万点の重要な文化財等が誕生するか計り知れない。

昨年11月には国重要文化財指定記念展が学内附属図書館で開催された。どれも凄みのある文書30余点であったが、その中で、「細川忠興自筆書状」は、一段と迫力が感じられた。歴史好きの方はよくご存じであろうが、1615年5月の大坂夏の陣で豊臣家が滅びる。徳川軍における日本中の幾多の大家の中に細川忠興もいた。5月7日ついに難攻不落の大坂城が焼け落ちた。歴史の大舞台のその時を面前で目撃し、業火の城を見ながら午後5時頃(申下刻)、跡継ぎの忠利や家老たちへ書いたその書状が展示された。日本史の決定的瞬間を物語る、生々しい実物である。

「急ぎ申し遣わす。大坂城攻めはすべてけりが付いた。軍勢は必要なくなった。おまえたちは…そこから引き返して豊前に帰国せよ。」

落城し戦が終わったその瞬間を共有させられる。筆遣いの中に息遣いが唸る古文書である。戦場の叫び、業火の音、焦げる匂い、夕刻の薄暗さの中に赤々と照らされる忠興の横顔と迫る感情が浮かび上がるそんな書状であった。

キャンパス
ミュージアム
散策

絵・文
松永拓己
大学院教育学研究科
教授・芸術家

熊本大学永青文庫研究センター

〒860-8555

熊本市中央区黒髪2丁目40番1号

TEL 096-342-2304

※毎年秋の大学祭期間に、
附属図書館で貴重資料展を開催しています。
詳しくは、附属図書館のHPをご覧ください。



〒860-8555 熊本県熊本市中央区黒髪2-39-1
Tel.096-344-2111(代表) <https://www.kumamoto-u.ac.jp>

黒髪キャンパス

本荘キャンパス

大江キャンパス

熊大通信のバックナンバーは、
「熊本大学広報サイト 熊大なう。」へ

